

門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。
羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。

(ヨハネによる福音書 10章3節)

出会った人の名前を一度聞いたら忘れないという人がいます。私はそういう人を尊敬するし、その能力をととても羨ましいと感じます。人とのコミュニケーションにおいて、名前を覚えることの大切さは言うまでもありません。仕事であれ、日常的なつきあいであれ、相手の名前を呼んでから話し始めたときには、こちらの伝えたいことの伝わり方は格段に良いものです。

以前、米国で生活していた頃によく感心させられたことは、人々は出会った他人の名前を知ること、覚えることをとても大切にしているように見えたことです。学校の先生であれ、教会の牧師様であれ、ファーストネームで呼び合うことは日常です。日本で「～先生」と呼んだり呼ばれたりすることに慣れてしまっている者は、一瞬驚いてしまうことがよくありました。テレビでニュース番組を視聴していると、スタジオのアンカーパーソンと現場のレポーターとの間で矢継ぎ早に言葉が交わされます。そうした際にも、発言する度ごとに相手のファーストネームを呼んでから話していることに気がつきます。「なるほど、これだけ頻繁に相手の名前を呼んでいたら、きっとすぐに覚えてしまうし、忘れないだろうな」と私は感心させられるのです。

二千人近くの清教学園生徒たちには、それぞれ立派で素敵な名前が与えられています。名前をつけた方の、子どもへの願いが込められています。仮に、私がアメリカ人に倣って、すべての生徒を姓でなくその素敵な名前と呼ぼうとしたら、気味悪がられるでしょう。幼稚園や小学校ならそれが普通ですが、中学校、高校では、やはり違和感があるでしょうか。しかしながら、たとえ姓で呼ぶとしても、また、アメリカ人のように一言発言する度に名前を云うことまではしないにしても、生徒であれ、先生であれ、相手の名前を呼んで、または少なくともよく意識して、会話をしたい、学校生活を送りたい、教育活動に励みたい、と、至極あたりまえのことのようですが、願うのです。

2024年度の学園聖句・標語を、ヨハネによる福音書10章14節のみことばから「**わたしは良い羊飼いである**」と決めました。この「わたし」は、イエス・キリストであり、主なる神様です。イエス・キリストはまことの良い羊飼いであって、自分の羊の名前をすべて知っておられ、呼んでおられると聖書は教えています。私は、救い主イエスに教育者のモデルを見ます。神様は、私たちのことをそのように大切にしておられるので、私たちもお互いをそのように大切に想い、新しい一年を歩みたいと願います。